

## 2.2.3 モデル地域の現状把握

## (1) モデル地域のこれまでの取り組み・現状・課題

プロジェクト名	四国八十八箇所霊場と遍路道周辺における広域的な文化的景観形成と計画的保全プロジェクト	町の宝「夢ざくら」満開	祖谷のかずら橋たたずまい創出プロジェクト	東かがわ市引田地区歴史街並み景観調査	道後温泉 歴史漂う景観まちづくり	梶原ししまる地区 まちづくり	
これまでの実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産暫定一覧表記載資産候補の提案</li> <li>4 県における景観形成指針等の策定、22 市町村が景観行政団体を実施し、その保全手法を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前田前松堂休憩所まへのひがんざくら(通称「夢ざくら」)が枯死寸前であったところ、その苗木の増殖に成功し、現在 150 本のひがんざくらを育成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水際公園の整備</li> <li>民有林の取得と間伐や紅葉樹の植樹</li> <li>かずら橋ライトアップ</li> <li>祖谷平家まつり(イベント)</li> <li>大歩危・祖谷の道路沿い、かずら橋周辺のクリーンウォーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H17.2 月オープンの讃州井筒屋敷の管理運営</li> <li>引田まち並み保存会による町並みや食の案内</li> <li>特産品の商品研究</li> <li>引田ひなまつり、ひけた着物語り等の地域のイベントサポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりの実態調査</li> <li>ランドデザイン 21 発表や温泉カジュアルフォトコンテスト開催</li> <li>景観まちづくりの学習会やワークショップ、フォーラムの開催</li> <li>道後温泉歴史漂う景観まちづくり宣言『百年の景』</li> <li>景観配慮活動に対する顕彰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道 440 号を利用したまちの活性化を検討する東区再生委員会(たくみの会)を組織し、月 1 回程度協議</li> <li>H19.8月の神幸橋のライトアップ</li> </ul>	
推進体制	推進主体	四国遍路世界遺産登録推進4県協議会	NPO法人阿波勝浦井戸端塾 会員 30 名	三好市(祖谷のかずら橋たたずまい創出プロジェクト)	NPO法人 東かがわ市ニューツーリズム協会	道後温泉歴史漂う景観まちづくり推進特別委員会	たくみの会
	協賛団体ほか	四国遍路世界遺産登録推進4県協議会専門委員会、各県と市町村との協議会、各自治体担当部局	技術者(渡農園主、勝浦高校OB、勝浦高校教員)の指導	(社)西祖谷山村観光協会 かずら橋保勝協会 でこまわし会	引田まち並み保存会 東かがわ手袋環境振興会	道後温泉旅館協同組合 道後温泉商店街振興組合 道後地区町内会 企業・個人・学識経験者 他	梶原町商工会(同女性部、青年部) 区長会
	支援	四国霊場会	勝浦町役場担当職員 勝浦高校担当職員 町内地域づくりグループ(6グループ)		東かがわ市商工観光室 東かがわ市商工会 日本手袋工業組合 東かがわ市歴史民俗資料館 香川県観光振興局にぎわい創出課 香川県観光協会	松山市都市政策課 建築指導課	梶原町環境整備課
現状・課題、背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>四国八十八箇所霊場及び遍路道周辺の文化的景観に対する理解を深め、生活の場として利用・保全する観点が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基幹産業であった未完産業が低迷し、若者が流出、過疎化が進む</li> <li>ビッグひな祭等のイベントによって交流人口増によりにぎわいを取り戻したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「祖谷」秘境として名を轟かせていますが、現実には観光化され個性も薄れてきている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町並み保全・活用型の観光交流を進めているが、住民の高齢化や貴重な歴史的建物の老朽化、喪失が深刻な問題</li> <li>引田地区における具体的な観光まちづくりの目標が欠如</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊客数が平成 11 年度の 135 万人をピークに、80 万人前半にまで減少</li> <li>事業者や市民への町の景観の重要性の認識醸成が必要</li> <li>美しい町を作っていく具体的なプロセスの提示方法が問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子・高齢化や人口減少が進み「集落消滅」の危機感</li> <li>美しい風景や伝統文化といった大切な宝物を活用しつつ、良好な景観形成を維持、継承していきたいが、検討・活用の仕方に苦慮</li> </ul>	